

京都の“木”とICTの“目”でつながる“心”

～林福連携「京想」プロジェクト～

山間部
・林業



林業科高校生
×
地域林業関係者
アーティスト

林業科の高校生が木を伐り、地元アーティストと一緒に木製品をデザイン
⇒地域の関係者、町の関係者、京都の木のファンとのつながりが生まれる

都市部
・福祉



高齢者施設にて、社会参加や雇用創出の取組として木作業に従事し、高校生の作った製品の仕上げを行う
⇒山間地域の高校生とのつながり、社会参加による社会とのつながりが生まれる

市役所

木材認証

製品認証

想

SNS・ポータル



北部山間地域の情報や、林業・木製品に関わった方の作業、想いを発信
⇒山間地域の関係人口の増加
消費者からのフィードバックも！

センサーシステム



ICTで生産工程を見える化し、作業工程などを管理
⇒関わった方の存在・時間の可視化（製品の背景が見える化）

消費者

積み木を長く、大切に
使おう！



週末に、京都市北部
に行ってみよう！



誰がつくったか
見えるので安心！



デザイン案を
提案しよう！

木材・製品認証による安心安全の京都の木（みやこ杉木）ブランドという選択
⇒トレーサビリティによる市内産木製品、市内山間部への愛着が増加！
⇒使った感想や、使っている様子、想いを生産者、加工者に直接お届け！

<わたしたちの大切にしたいこととアイデアについて>

①「持続可能性×林業・森林」に共感したメンバーが互いにつながり、継続性のある本業あるいは有償の事業として関わることで、継続性、推進力、他地域への展開力の高い**持続可能な取組**を目指す！



<高校生の木工作業は既にプロレベル！>

③ 行政の協力のもと、**徹底した現地主義、人主義**で、視察やヒアリングにより自分達で(定性)データを集める！

日付	活動内容/場所	リサーチ対象	リサーチヤー
9/11	フィールド調査(地域課題ヒアリング) 場所: 京北地域全域	地域の方(自治会長、旅館女将、農家民宿経営者、農業従事者、地域おこし協力隊)等	チームメンバー(IT企業社員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、学生等)
10/8	チーム立ち上げワークショップ 場所: 京極ダイニング	参加者: チームメンバー(京北地域の林業家、アーティスト、福祉法人職員、研究所職員、フリーランス、学生、行政職員、新聞記者(非メンバー)、ファシリテーター(非メンバー)等)	チームメンバー(研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等)
10/23	フィールド調査(森林実習の視察) 場所: 北桑田高校森林リサーチ科	北桑田高校森林リサーチ科実習生、教員	チームメンバー(研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等)
11/13	課題深掘りワークショップ 場所: コラボオフィス E9	チームメンバー(京都市北部震山村地域の企業の行政書士、フリーランス、行政職員、環境エネルギー関連企業社員(非メンバー)等)	チームメンバー(研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等)
11/21	フィールド調査(林業現地視察) 場所: 京北協木協会	京北協木協会 会長、副会長 複数名の地域の林業家	チームメンバー(研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等)
11/29	フィールド調査(木工実習ヒアリング、林業作業現場視察) 場所: 北桑田高校、京北山間地林業作業現場	北桑田高校森林リサーチ科実習生、教員 林業従事者	チームメンバー(研究所職員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、大学職員(非メンバー)等)
12/2	実証実験(福祉施設で木工作業のデータ化、見える化を検証) 場所: 高齢者福祉施設 西院	京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院 利用者 複数名	チームメンバー(福祉法人職員、行政職員、フリーランス等)

② 社会的弱者、要庇護者と思われがちな高齢者や子供・若者と、産業基盤が弱体化した林業が組み合わせられることで新たな関係性や価値の創出という「**つながり**」による**イノベーション**を起こす！



<メンバーの介護事業者の取組>

本プロジェクト取組中に「認知症とともに生きるまち大賞」受賞！

アイデア① 「林福連携」の木工製品の企画・販売

農山村地域にある高校の林業科の高校生と街の福祉事業者の高齢者、京北在住のアーティスト等がタッグを組んで、京北の木の魅力と作り手の想いが詰まった木工製品(木のおもちゃ、食器、SDGsグッズ等)をつくり、福祉施設や地域の高齢者とともに販売する。

あわせて、京都産木材を使用し、地域、社会に貢献すると**認定された持続可能な木工製品**に、行政(京都市)から製品認定を受ける認証制度を提案する。

2019年度

現地視察、アイデア出し、仲間づくり

2020年度

- ・高校・介護施設連携プロジェクト開始(4月開始予定)
- ・地元アーティストも連携しブランド化

2021年度～

- ・ビジネスセクターの参入による地域産業化
- ・他自治体、他介護事業者等への横展開

アイデア② ICTで見える化し、働く場の「つながり」を促進

チームメンバーのIT企業が開発した「NFCタグシール」とセンサーによる簡易な出退勤管理ツールにより、木工品の「彫り」や「磨き」等の作業工程を「誰が」「いつ」「どこで」「どれくらい」関わったかを数値化(CSV出力)することを可能とする。労働時間の管理という定量的なデータを取得しつつ、「この木工品にはこれだけの手間と労力がかかっている」、「これだけの方が関わってこられた」という**新しいデータの価値(物語)**を提供する。

2019年度

関係者調査・実証実験

2020年度

実証実験継続→ビジネスユースとの連携

2021年度～

働き方改革×データ利用のモデルケースに



<実証実験の様子>

アイデア③ SNSを通じて、作り手と買い手、森と街、高齢者と若者がつながり、新しい関係性が生まれ、北部山間地域の関係人口が増大

センサーにより得られたデータ、生産者の情報、消費者の声をSNSポータルを通して発信し、現在距離感のある、作り手と買い手、山間地域と街の住民、世代間のつながりを生みだすお手伝いをする。

2019年度

- ・地域住民、消費者のニーズ調査
- ・SNS企業連携

2020年度

SNSポータルを立ち上げ情報発信
※行政とも連携

2021年度～

京都市山間地域、京都産木材ファン(関係人口)の増加



<京都市北部山間地域(京北地域)で開催したワークショップ後の一コマ>